

カーボンオフセット

【北海道】新しい地  
球温暖化防止・環境  
貢献の取り組みとし  
て、カーボンオフセッ  
トの動きが広がってい  
る。道内では、サッポ  
ロビールが製造販売す  
る生ビールを「銀座ラ  
イオン」の道内店舗で  
飲むと、ビール製造・  
輸送にかかるCO<sub>2</sub>排  
出をオフセットし、飲  
めば飲むほど北海道の  
森が守られる取り組み  
や、オホーツク紋別空  
港の運営にかかるエネ  
ルギーから排出するC  
O<sub>2</sub>を紋別市の「流水  
の森クレジット」を購  
入してオフセットする  
取り組みが大きな注目

を集めている。これら  
をサポートしたのが有  
る。他の場所の削減・  
吸収量で埋め合わせる  
仕組み。国内では主に、  
川勝也社長、札幌市白  
石区)だ。長谷川社長  
「J-IVE」の2制  
度が普及してい  
る。排出  
出権(クレ  
ジット)の  
とは、企業などが自身  
の温室効果ガスの排出  
量を認識し、削減努力  
を行った上で、どうし  
のがプロバイダーだ。  
同社は道内でブック  
オフコーヒー・レーションのFCを5  
店舗展開し、リユース  
事業をメインに行つて



ジット)の創出や提供などに関わり、取引を結びつけるのがプロバイダーだ。同社は道内でアックオフコードレーショング、ハードオフコードレーションのFCを53店舗展開し、リユース事業を行ってボンオフセツト協会会員が生まれるmate(マイクライメイト)と共同出資し、の3点を挙げて、NPO法人mycity(マイクライメイトジャパン(東京都中央区)、「J-VC」のPR効果で、回では、長谷川勝也社長「七

る③対外的  
ある——  
れる制度がある」と プロジ  
説明。また、「まだ新  
しい取り組みなので ジット  
コストをかけずにメ  
ディアに取り上げられ  
る可能性もある」と話  
す。

02ノン  
る。ま  
活用し  
設や、こ  
明のL  
クレジ

ン、吸収系  
物流業界で活用でき  
い気配25

「収益化」などメリツト

工コノス  
長谷川勝也社長

「お薦めはBDF車」 さっぽろのたに申請し承認を得ることができれば、可能 BDF活用される制度がある」とプロジェクトで年間5性はある」という。 J—VERの市場コストをかけずにメ また、業界団体など  
明のLED化を束ねて内で取引させる制度も  
明のLED化を認め、業界活性化が担保できるなら、業界団体などでは、削減系は売  
出で、分配1方7500円の可能性もある」と話す。  
物流業界で活用でき クレジット化するよう設けることも出来る。

と述べ、「物流をどうの  
かは大きなテーマ。  
カーボンオフセットに  
取り組むことで、他社  
との差異化につなが  
る。事業の付加価値を  
高めることは十分に可  
能だ」と指摘している。

いるが、08年からカーボンオフセット事業を開始し、現在は道内唯一、国内でも有力なプロバイダーの地位を確立している。昨年11月には世界的なオフセットプロバイダー・セットアップが、  
長に就任した川社長は①クレジットにつける②クレジットによる企業

ト創出のメ  
いて、長谷  
CO<sub>2</sub>の削  
を売買する  
収益化がで  
ジットを購  
との結びつ  
0円／トンの助成を得  
は売り気配1万730  
0円／トン、買い気配  
の値で取引されてい  
ようだ。国内クレジッ  
トの取引価格は公表さ  
れていないが、150  
4800円／トンの間  
ラックの活用」と  
す。同社が関わった  
例として、当別町の  
ミニニティバスのP  
F活用プロジェクト  
年間56㌧、産廃収集

いな取り組みを面白」という。一方、長く植樹活動に事を積極的に行ってきました。このコトラック業界だが「D-B 樹のクレジット化は下で定が厳しいため、不運能ではないが、ハー

長谷川社長は「物流」と語る